

【研究分担課題名】 本邦における PrEP（曝露前予防）の指針策定に関する研究

研究分担者名：谷口俊文（千葉大学医学部附属病院・講師）

## 研究要旨

HIV 感染症の曝露前予防（PrEP）の提供体制の整備が急務である。本分担研究では、日本エイズ学会と共同し PrEP の指針を策定し、正しい情報提供の基盤とするとともに、日本での PrEP 導入法についても検討し提言を行う。

### A. 研究目的

PrEP 提供体制整備の一環として、日本における PrEP の指針を日本エイズ学会と共同して策定し、現在、公知申請中の抗 HIV 薬ツルバダが PrEP 用に承認された際には、ガイドラインへと発展させる。同時に、海外での導入経験を参考に、日本での PrEP の導入法についても検討し、提言を行う。

### B. 研究方法

日本における PrEP の指針策定に関して、すでに草の根で PrEP 使用者は増加していることを踏まえ、日本エイズ学会の協力のもと、医療従事者、コミュニティと共同し、日本の実情を踏まえた PrEP 指針の初年度内の策定を目指す。PrEP が日本で承認された際には、同指針をガイドラインに発展させることを予定している。また、次年度より PrEP の日本への導入に向けた提言について、当研究の先行研究で実施した海外における PrEP 導入事例調査の成果をもとに導入法の検討を行う。最終年度に、検討結果を元に日本における PrEP 導入の提言を行う。

### C. 研究結果

令和 3 年度の成果として、日本エイズ学会と共同で、PrEP の指針策定案および実施体制案をとりまとめた。同案は日本エイズ学会ホームページで公開しパブリックコメントの募集を開始した。最終年度には、米国の PrEP ガイドラインの 2020 年の改定なども受けて指針を完成させるとともに、同時に関係者の方向性を定めて日本における PrEP の導入方法の最終提言を行う。る PrEP の導入方法

の検討を行う。

### D. 考察

PrEP は、MSM において草の根で無視できないレベルで普及しつつあり、PrEP の正しい情報提供とその指針の作成が急務である。日本における PrEP の診療指針は、日本エイズ学会と当研究班が主導しながら、医療従事者、コミュニティの当事者が検討しつつ作成して、ガイドラインに発展させるべきである。

### E. 結論

日本においても PrEP の早期導入および指針策定が必要である。

### G. 研究発表

なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし